

「東北」から未災地への伝言

—— 南海トラフ地震に備えて ——

日程：2019年1月12日（土）～13日（日）

東日本大震災の被災地では32兆円規模の復興事業費によるインフラ整備が進み、津波で甚大な被害を受けた地域では、417地区で高台移転計画がまとまっている。家を失った人たちは山を切り拓いた高台に移り住み、市街地を嵩上げた新しい街に賑わいが生まれている地域もある。

一方で、総延長457kmに及ぶ防潮堤の整備計画は津波被災地の671地区で持ち上がり、住まいの再建よりも先に防潮堤整備ありきで、合意形成の進め方に課題が残った地域も少なくない。

政府の地震調査会によると、南海トラフ地震が30年以内に起こる確率は「70～80%」であり、関東から九州までの広い範囲で被害が想定されている。「東北」での地域再生の体験と知恵は、功罪を含めて南海トラフ地震の想定被災地での「事前復興」の取り組みに生かしていく必要がある。

2019年復興・減災フォーラムは、東日本大震災の被災地と南海トラフ地震の想定被災地から研究者や首長、自治体職員、民間事業者、NPO代表らをお招きして、高台移転や嵩上げによる街づくり、防潮堤整備をめぐる地域の課題をテーマに津波被災地の再興について考える。

全国被災地交流集会「円卓会議」

シンポジウム

(敬称略)

2019年 **1月12日** (土)
13:00～17:30

関西学院会館レセプションホール光の間
(兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155)

テーマ：**東日本大震災の「復興知」を繋ぐ**

●プログラム

- 第一部 高台移転・嵩上げによる街づくり
- 第二部 防潮堤問題から何を学び取るか
- 第三部 総括討議

司会

野呂 雅之 (関西学院大学災害復興制度研究所 主任研究員・教授)
斉藤 容子 (関西学院大学災害復興制度研究所 指定研究員)

申し込み方法

参加ご希望の方は、裏面の参加申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記宛に郵便、FAX又はメール (参加申し込み用紙と同じ項目を記載) にてお申し込みください。(入場無料)

関西学院大学 災害復興制度研究所

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL.0798-54-6996 FAX.0798-54-6997
URL <http://www.fukkou.net/>
E-mail: kgu_fukko2005@fukkou.net

[主催] 関西学院大学災害復興制度研究所

[共催] 日本災害復興学会 [後援] 朝日新聞社

2019年 **1月13日** (日)
13:00～17:30

関西学院会館レセプションホール
(兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155)

■基調講演

東日本大震災の経験・教訓と次への災害の備え
— 忘却との闘い

今村 文彦 (東北大学災害科学国際研究所 所長・津波工学教授)

■特別講演

進化する「とくしまー0 (ゼロ) 作戦」の推進について
飯泉 嘉門 (徳島県知事)

■パネル討論「津波被災地の再興を考える」

◎趣旨説明

野呂 雅之 (関西学院大学災害復興制度研究所 主任研究員・教授)

《パネリスト》(50音順)

阿部 秀保 (前東松島市長)
古関 良行 (河北新報論説委員)
近藤 民代 (神戸大学大学院工学研究科 准教授)
田嶋 勝正 (串本町町長)

《コーディネーター》

室崎 益輝 (兵庫県立大学減災復興政策研究科 研究科長)

《コメンテーター》

今村 文彦 (東北大学災害科学国際研究所 所長・津波工学教授)